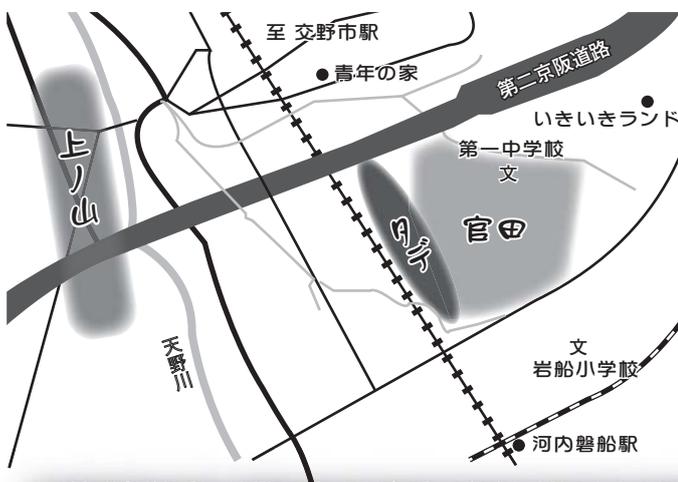


まちの名に 歴史あり

問い合わせ 文化財事業団 (TEL 893・8111)

～私部～



うえんやま 上ノ山

天野川にかかる逢合橋を西南に越えた一帯を上ノ山と呼びます。

上ノ山は京都から高野山に通じる東高野街道と、交野山の山際(根)を沿うように続く山根街道の合流地点であり、現在は宅地となっていますが、以前は竹やぶが茂るこんもりとした丘でした。この合流地点の近く(現在は枚方市域)には、私部村の人々が建立した上ノ山地蔵が立っています。

またこの辺りは、元亨元年(1321年)、摂津国の法明上人が石清水八幡宮に向かう途中に、八幡宮から迎えにやって来た社人から貴重な曼荼羅の掛け軸を受け取った場所と言われています。これに大喜びした法明上人は、その掛け軸を近くの松の木にかけて念仏を唱えながら踊ったという伝説があり、この地域は「ほんぞんかけまつあと本尊掛松跡」と呼ばれ、その周辺地域を「しょうにんまつ上人松」や「上ノ山」と呼ぶようになったと言われています。

タデ

私部の落合橋から私市へ一本道が走っており、この付近をタデと呼んでいます。落合橋から私市道を南へ少し行くと「大門」と呼ばれる田があり、ここは私部の豪族であった北田久左衛門尉好忠が大和郡山城主の筒井順慶と争った場所だと北田家系図にあります。

この争いで私市方面からの攻撃に備えるため、この地域に出域的な館たてがあったのではないとも言われ、館がなまって「タデ」と呼ばれたという説があります。

かんてん

官田

現在の第一中学校近くの田んぼが広がる地域一帯を官田と呼びます。

官田という地名の由来は二つあり、一つはこの場所が周辺の地形よりも一段と高く、川も夏枯れになることから、乾田だったのではないかという説です。

また奈良時代には、天皇がお食べになるお米を作っていた田んぼを官田といい、それが地名になったと言われる説もあります。現在も田んぼが多く残る地域ですが、ここのお米を奈良時代の天皇が召されていたのかもしれませんが。



落合橋からの風景。中央の一本道が私市道で、道路より右側の田が「タデ」、左側が「官田」

歴史探訪～私部～

とき 11月27日(火)午前10時

集合 交野市役所別館前

コース 私部城跡—光通寺—無量光寺—北田家住宅—住吉神社

※ガイドが付き添います。施設は外からの見学となります。

参加費 100円(保険・資料代)

定員 先着30人

申し込み・問い合わせ 11月1日(木)午前9時から文化財事業団(TEL 893・8111)